

「幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準」の一部改正等について

1. 朝夕の保育士配置の要件弾力化について

【保育所における対応方針】

配置する保育士は最低2人とされているところ、朝夕の児童が少数である時間帯において、最低基準上必要となる保育士数が2人を下回る場合、うち1人は保育士資格を有しない一定の者(子育て支援員研修を修了した者、十分な保育業務経験を有する者、家庭的保育者等)も活用可能とする。

【幼保連携型認定こども園における対応方針案】

- ・ 保育所と同等の措置を講じることとする。

2. 小学校教諭免許等の保持者の活用について

【保育所対応方針】

保育士と近接する職種である幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭の免許保持者を、配置する職員の3分の1を超えない範囲内に限り、保育士に代えて活用できることとする。

【幼保連携型認定こども園における対応方針案】

- ・ 小学校教諭又は養護教諭の免許保持者について、移行特例期間（平成31年度末まで）に限り保育所と同等の措置を講じることとする。ただし、教育時間中に教育に従事する場合は、小学校教諭免許保持者に限ることとし、他の保育教諭の補助者として活用することを基本とする。
- ・ 幼稚園教諭は移行特例により現行で配置可能。

3. 研修代替要員等の加配人員における保育士以外の人員配置の弾力化について

【保育所対応方針】

- 利用定員の総数に応じて置かなければならない保育士数を上回って必要となる保育士について、保育士資格を有しない一定の者(子育て支援員研修を修了した者、十分な保育業務経験を有する者、家庭的保育者等)を活用可能とする。
- 公定価格上の研修代替要員等の加配人員要件について、保育士資格を有しない一定の者(同上)を活用可能とする。

【幼保連携型認定こども園における対応方針案】

- ・ 教育標準時間中を除き、保育所と同等の措置を講じることとする。

施行日：平成28年4月1日